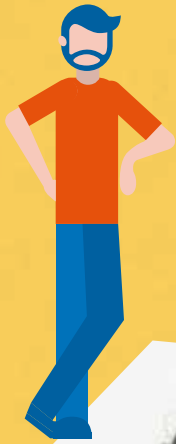


WE  
LOVE

地域医療の橋わたし



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告  
リレートーク第33回
- コロナ禍のなかの地域医療  
総合病院松江生協病院  
院長 高濱 顕弘 先生



# 活動報告

令和2年6月22日(月)18:00~19:30

## 学生主催 特別選抜枠交流会 (Web開催)

【参加者】学生23名、教員3名

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学生達は前期オンライン授業を余儀なくされた。学生同士や教員との繋がりが薄れる中で、6年生の学生からオンライン上で特別選抜枠の交流会をしないかと提案があり、学生主導で開催の運びとなった。



当日はその6年生の学生が司会進行を務め、最初に佐野教授から入試制度の説明が行われた。その後、6・4・3年生の学生から、フレキシブル実習や地域医療実習での学び、そこでの新たな出会い・繋がりについて紹介があった。「医学的知識がない1年次であっても見て聞いて体験したことが後の学びと統合され確かな知識になる。」等々、自分の考えや気持ちを的確に伝える学生の姿に頼もしさと同時に、島根の未来は明るいと感じた。

令和2年8月8日(土)10:00~12:00

## 令和2年度総合診療医 ブラッシュアップセミナー (Web開催)

【講師】島根大学医学部総合医療学講座  
教授 牧石 徹也 先生

【講師】国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター  
センター長 大曲 貴夫 先生

【参加者】46名



第1部は、「学生・若手医師に総合診療の魅力をいかに伝えるか」をテーマに、7月教授に就任された牧石先生にお話し頂いた。用途に応じSNSを使い分けるスマホ世代への臨床教育として、指導者側の「伝える工夫」が必要であると話された。継続的な発信とコンテンツ選びが重要で、例えばビジネス用に開発された情報共有プラットフォームをこれからの指導者は使いこなしていく必要があると話され、貴重な示唆を得た。

第2部は、「COVID-19」をテーマに東京都のコロナ対策の助言者である大曲先生にお話し頂いた。国内の発生動向と特徴、治療方法、クラスター対策、ワクチン開発等最も先進的な知見を持たれる先生のお話には、講演終了後も多くの質問が寄せられ活発な議論が交わされた。

令和2年9月7日(月)~10月2日(金)

## 研究室配属

【配属学生】医学科3年生2名

当講座の研究室配属は、今年度浜田市の弥栄診療所に協力を頂き、弥栄町を中心としたフィールドワークをメインに予定していた。しかし、コロナ感染症拡大に伴い大学外に出ることは叶わず中止となった。内容を学内及びオンラインに切り替え、2名の学生が第一希望で配属となり、9月7日よりスタートした。

2人は、いずれ出身地に帰り地域医療に携わりたく、そのワンステップというのが当講座への志望の動機であった。教授の地域医療の問題点は何かの問いかけに対して、自己の考えを落ち着いて述べ、好印象を受けた。地域医療についてワンテーマを持ち最終的にレポートを提出するが、主体的な学びが更なる地域医療への関心につながることを期待したい。



令和2年8月7日(金)15:00~17:00

## 地域医療支援研究会

【テーマ】介護保険の現状と課題 -介護報酬改定に向けて-

【場所】ゼブラ棟多目的室I・II

【講師】浜田保健所 所長 村下 伯 先生

【参加者】7名



最初に医療・介護の潮流についてお話し頂いた。事例を通して介護保険サービスの実際や地域包括ケアシステムの構造上の位置づけをオリジナルの概念図で説明頂き、島根県は生活の支援基盤整備が重要であることが分かった。また、急性期病棟退院後の療養場所が少ない現状について触れられ、参加者の地域の事案と併せ活発な意見交換が行われた。

介護予防では、健康づくりと一体的な展開をする「通いの場」についてお話し頂いた。今後世帯構造が変わる中でシングル介護が増加し、家族の代替機能を誰がどう果たすのか深刻な問題で支援の質が問われると指摘された。更に令和3年度の介護報酬の改定内容を、島根県の現状と照らしお話し頂き、新たな知見を得た。

令和2年8月8日(土)13:30~16:30

## 令和2年度総合診療専門医 プログラム説明会 (Web開催)

【講師】雲南市立病院 地域ケア科 坂口 公太 先生

【参加者】35名

第1部は坂口先生に「専攻医としての実践:自分で考え自分で決める」と「経営大学院での学び:越境学習」についてお話し頂いた。

その内容はご自身の経歴を、「Planned Happenstance Theory」や「経験学習モデル」を理論背景に述べられ、「偶然に引き寄せられて今がある」「経験と共に視座が高まってきた」等ワクワクさせられるものであった。キャリア形成における偶然もまた先生が主体的に行動される中に自ら創り出されたものであり、ステップアップの機会に変えられていることに感嘆した。

第2部は、島根県内9病院に総合診療専門研修プログラム内容を説明頂いた。このプログラム説明会を機に、一人でも多くの医学生・初期研修医が総合診療専門医の道を志してもらえたら幸いである。



令和2年9月11日(金)15:15~17:00

## 職員FD

【場所】みらい棟2階共通カンファレンスI

【テーマ】地域包括ケアシステムと多職種連携

【講師】島根県浜田保健所  
所長 村下 伯 先生

【参加者】職員4名 研究室配属医学科3年2名



講座職員の資質向上を目的に開催した。最初に事例をもとに地域包括ケアの考え方やシステムを捉える視点を教示頂いた。予防重視の観点から関わる県内の対象や健康寿命の延伸に向けた取り組み、介護保険で利用できるサービスや専門職種とその連携が理解できた。連携においては、信頼感を持って一緒に仕事ができるという「顔の見える関係」が重要で、多職種が地域で継続的に話し合う機会が構築されることによって、地域連携が促進することも分かった。

また、介護予防・生活支援等、県内での取り組みをご紹介頂いた。地域が抱える問題を「わがごと」と認識し解決に繋げる力を持つ住民組織の取り組みの一つが地域包括ケアそのもので、大学として住民活動を支える意義も確信した。



# セミナー報告

SEMINAR REPORT



## 地域医療Webinar



## 総合診療医の役割

【実施日】令和2年7月3日(金)18:00~19:30

【講師】宮城県気仙沼市立本吉病院  
院長 齊藤 稔哲 先生

【参加者】17名

概要

先生には、総合診療医と臓器別専門医には求められる医療の役割の違いがあるとして、「生活を維持する医療」と「治す医療」に分けて明確に説明頂いた。

地域の総合診療医の役割は「幸せ」をキーワードに、「地域の住民の幸せが最大になるように、『人を細分化せず1人の人として診療し』、『医療・福祉を含む、地域の生活の在り方を観察し』、『不足している医療を補い』、『地域の組織力を向上させ』、幸せの基盤となる生活を住民と一緒に作っていくこと」と定義された。

先生は最初の自己紹介で、生粋の総合診療医ではない紆余曲折系医師が語る総合診療であると述べられたが、これまでの全ての経験が統合され実践の中から語られる言葉には重みがあり、住民に対する慈愛が満ちていた。

## Career Webinar



【実施日】令和2年7月8日(水)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター  
助教 和足 孝之 先生

【参加者】41名

概要

先生には、「好きを武器に変える方法 ~てか、何限界決めてるの~」と題してお話し頂いた。

学生には、「君らの可能性はほぼ無限大」「本来の志を取り戻してみよう」と呼びかけ、withコロナの時期に自分がやるべきことを、自虐ネタを織り交ぜて5つのWork活動が行われた。その結論は、「不便なこと出来ないことばかりを嘆いても環境は変わらない。ならば自虐を利用して将来の武器に変える。」「重要で緊急でないことに着目する」等であった。

最後に、総合診療は世界的なビジョンで台頭してくるので、学問として学んで欲しいと伝えられた。濃密な内容にテンポの良いお話しは、聞き手の「読み解きたい」という心象を誘うエスプリに富み、カリスマ性の一端を垣間見せて頂いた。



【実施日】令和2年9月14日(月)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部耳鼻咽喉科学講座  
教授 坂本 達則 先生

【参加者】20名

概要

タイトルは、「その心は」と問いかけたくなる「来たバスには乗れ!!」であった。お話の前から心を鷲掴みにされたバスは、先生のご経歴の節目節目に貴重な経験をもたらし、間にはブータン・カンボジア行きもあり、その時の診療の様子もお話し頂いた。

最初に来たバスが神戸・耳鼻咽喉科行きで、その時は勧めに従って来たバスに乗ったそうである。キャリアを積む中で、何らかの縁あるバスが来て迷いながら乗っていたのが、いつしか呼ぶものになったそうである。もちろん輝かしいキャリアが呼び寄せたことに他ならない。そして、教授に就任しこの準備をしながら、「バスの運転手にならなければならない」と思われたそうである。

視聴学生達は、すでに島大耳鼻咽喉科行きのバスに乗ろうとしているかもしれない。



総合病院松江生協病院

院長  
高濱 顕弘 先生

今、盆ですが危険な暑さの中、原稿を書いています。

今年の夏はいつもの夏とは違います。街を歩き来する人の数は減り、皆マスクをつけ、盆の里帰り、墓参りも自粛されています。テレビのニュースは人出の少ない空港や新幹線、渋滞のない高速道路の状況を伝えており、甲子園では高校野球交流試合が行われていますが例年の夏の甲子園ではありません。本来なら東京オリンピックが終わってその余韻に浸っているはずでした。

言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。大都市圏のみでなく、ここ島根でもクラスターが発生しています。感染収束の兆しが見えないどころかますます拡大しています。

医療、介護の分野も大きな影響を受けています。感染者の入院、治療を担う感染症指定医療機関の負担は多大なものがあります。その他の医療機関、介護施設、事業所でも感染対策に腐心し、感染の状況によっては活動の一部を制限せざるを

えない状況となっています。

各職種がそれぞれの立場で、コロナ対応に追われながらも地域の皆さんの健康と生活を守っていく事が求められます。特効薬やワクチンの開発、実用まで我慢が続くのかかもしれません。



総合病院松江生協病院

〒690-8522 島根県松江市西津田8丁目8-8  
Tel: 0852-23-1111

第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会Web開催 学生セッション(口頭)  
「地理情報システム(GIS)を用いた医療アクセスの地域格差の解析-島根県浜田市において-」  
医学科6年 島田直英さん最優秀賞受賞(3年連続入賞)



私はサークル「地域医療研究会」に所属し、浜田市弥栄町をフィールドとして活動してきました。以前から地域医療と一口に言っても、都市部に比較的近い地域もあれば、山間で独立した地域もある一方で、これらすべてが地域医療=大変という一元的なイメージで括られていることが気になっていました。ですので僻地を時間と距離という因子に分解し、定量化及び可視化し

ようとしたのが今回の研究の始まりです。

この研究で分かったことは町内の7割の人口が徒歩や自転車での医療アクセスが困難であったこと、救急病院までの合計搬送時間が浜田市中心部では平均11.2分に対して弥栄町内では30.0分かかることがわかりました。

今後も地域で学ばせて頂いたことを地域に還元できるよう尽力したいと思います。



今後の予定

地域医療支援学講座

10周年記念事業

島根地域医療フォーラム

令和2年10月17日(土)13:00-17:00

基調講演:

講師:佐野 千晶

島根大学医学部地域医療支援学講座 教授

特別講演:

講師:長谷川 仁志 先生

秋田大学 大学院医学系研究科  
医学教育学講座 教授

Career Webinar

令和2年10月19日(月)  
12:15~12:45

講師:牧石 徹也 先生  
総合医療学講座 教授

令和2年11月10日(火)  
12:15~12:45

講師:長尾 大志 先生  
病院医学教育センター センター長  
呼吸器・化学療法内科 准教授

地域医療Webinar

令和2年11月20日(金)18:00~19:00

講師:坂口 公太 先生  
雲南市立病院 地域ケア科 医員

ワークライフバランスセミナー

令和2年11月16日(月)18:00~19:30

講師:宮崎 結花 先生  
株式会社Woman's 代表取締役

CHECK



レターをお読み頂きありがとうございます。季節は二十四節気の秋分が過ぎ、まもなく寒露を迎えます。草花に露が宿り空気が澄み渡ります。コロナ禍で重苦しい心に、マスクを外しそんな新鮮な空気を思いっきり吸ってみたいものです。萩にススキに吾亦紅、秋の草花は線が細く、風に身を委ねるかのように寄り添い優しく揺れています。そんな心地良い自然界のリズムをひととき私たちの体にも取り入れたいですね。下旬には霜降、朝夕が冷え込む頃となります。ご自愛下さい。

